



先発し、4回を力投した岩崎選手

岩崎「初回からマックス」

公式戦初登板

○：公式戦初登板となった八学光聖の先発登板調整(2年)は4回2失点と試合をつくった。無失点で抑えたかったが、初回からマックスで投げられた。妥協を待たず、先発は当日の朝に告げられた。緊張は大きかったが、初回は切れのある変化球で三振を奪うなど上々の滑り出し。三、四回は先頭打者に安打を許し、いずれも失点につながってしまったが、リードを保持したまま次に託した。

昨秋の青森県大会、東北大会はベンチ外。球速アップなどに励み、安定してゲームメイクができるようになった。次戦もチャンスがあれば全力で闘を振るつもりだ。

佐々木 光る守備 出塁許さず



8回に守備で好プレーを見せ、流れを呼び込んだ八学光星の佐々木龍馬

○：4-4の八回1死走者なしの場面。八学光星の二塁手佐々木龍馬が中前に抜けるかと思われた打球をグラブに収めると、素早いジャンピングスローで一塁へ送り、出塁を許さず。好守備で試合の流れを呼び込んだ。

胸を張った。この日、打席では2四球1安打など全打席で出塁。「振り逃げの時はボール球に手を出してしまったが、その他は見極めて自分の仕事ができた」次戦は中京大中京（愛知）とぶつかる。「自分たちのやってきた守備などを信じて戦っただけ」と意気込んだ。

「前の試合は大事なところでエラーしていた。練習で鍛え直した結果を出せた」と